

## マリアと協力して

### 第4回MLC国際会議において代表者により承認された文書

#### はじめに

1. 信徒マリアニスト共同体 (MLC) の発足以来、わたしたちはマリアニストのカリスマについて考察を行ってきました。過去の世界大会において、わたしたちマリアニストのアイデンティティを定義し、わたしたちの使命と共同体に生きる道を明確に認識し理解しました。この第4回国際会議では、わたしたちとマリアとの関係についての理解を深め、マリアを人々にもたらすために、わたしたちの生活での、また共同体でのマリアの存在について考察しました。
2. 福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードはその生涯を通じて、そして特にサラゴサの柱の聖母教会にて、マリアからの力強い霊示を受けました。彼はアデル・ド・バッツ・ド・トランケレオンおよびマリー・テレーズ・ド・ラムルースと共に、マリアと協力する信徒共同体を設立することによって、この霊示をフランス教会の再建のための新たな宣教的展望へと具体化しました。
3. わたしたちは、キリスト教世界のどの文化においても様々な形のマリア信心があることを理解しています。マリアニストの霊性は、この世にキリストを現わすというマリアの使命をマリアと協力して遂行することをわたしたちに求めています。マリアとわたしたちのこの関係を理解するために、わたしたちはこれを「マリアとの協力」と呼んできました。この「マリアとの協力」が、わたしたちをマリアニスト家族の全会員と結びつけ、キリスト者の共同体を形作り築き上げることへと導きます。
4. マリアニストの霊性を生きる中で、わたしたちは様々な場所で、また極めて多様な文化的かつ社会的な経験と共に、時代の挑戦に直面しています。わたしたち個人の生活や共同体での生活は分断化や孤立化によって脅かされています。わたしたちマリアニストは、これら挑戦的時代の中にあってもマリアの中に強さの源泉を見出すのです。
5. 今日、わたしたちはこの時代のしるしに注意を向け、信仰と生活の調和を熱望して、わたしたちを鼓舞しわたしたちの献身を強める方法を、創立者たちの教えの中に、そしてマリアとの協力の中に見出します。  
わたしたちは、「知ること」「愛すること」「奉仕すること」というマリアニストの伝統に従ってこの文書をお届けします。

#### 知ること

6. マリアはわたしたちにとって尽きることのない知恵の泉です。それゆえ、わたしたちは聖書の次の箇所にもマリアの姿勢を見出すよう努めます。
7. お告げ「ルカ1:26-38」の中に、わたしたちはマリアの神への信頼と神のご意志を喜んで受け入れる

姿勢を見出します。マリアと共に「お言葉どおり、この身に成りますように。」と言います。

8. ご訪問「ルカ1:39-45」の中で、わたしたちは他者に寄り添い奉仕することをマリアから学びます。わたしたち自身が何らかの困難を抱えていても、わたしたちはマリアのように、他者に対しいつもわたしたちの最善のものを捧げる者でありたいと望みます。
9. マリアの賛歌「ルカ1:46-55」の中で、マリアは神が貧しい人、苦しんでいる人、見捨てられている人と連帯していることについて歌います。マリアは、身分の低い者を高く上げ、この世の悪を打ち砕き変革していく神の力の証人なのです。わたしたちはマリアのこの模範に従って、神の偉大さ、力そして憐れみの勇敢な証人であり、預言者でありたいと望みます。
10. ベトレヘムで「マタイ2:1-12」マリアはイエスを生み、身分の低い者にも、権力者にもイエスを現します。さらにマリアは自分に起こるすべてのことに注意深く、それらを大切に心の中に納めます。マリアのこの模範に倣い、わたしたちもこの世のすべての人の生活の中にキリストを導き入れる道でありたいと願い、キリストがすべての人の中に生まれ成長することを容易にし、マリアのようにこれらの出来事を深く思い巡らす者でありたいと望みます。
11. マリアはその時代の暴力的状況下にあつてやむを得ず幼子の命を守るために、エジプトに逃れなければなりません「マタイ2:13-23」。マリアは暴力に直面するときの福音的な姿勢をわたしたちに教えています。わたしたちは、同様の状況に苦しんでいるすべての人々と連帯したいと望みます。
12. マリアが幼子イエスを神殿の中に見つかる時「ルカ2:50-51」、マリアは神の計画が分かりませんが、それを心の中に納めます。この姿勢を通して、マリアはわたしたちに、心の信仰を生き、たとえ理解できなくとも神の意志を受け入れ、それを遂行するよう勧めています。
13. カナの婚宴で「ヨハネ2:1-11」マリアはどのようなときも他者の求めに注意深い女性であることを明らかにし、イエスに信頼を置いています。マリアのこの姿勢は、人々の求めに耳を傾け、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」という言葉を受け入れるよう、わたしたちに求めています。
14. マリアはイエスの十字架のそばに、イエスが愛した弟子とともに立っています「ヨハネ19:25-27」。わたしたちは、彼らのように、わたしたち自身の苦しみを受け入れ、他者の苦しみの時に寄り添うことを望みます。イエスはマリアを母としてわたしたちに与え続け、そしてマリアはわたしたちを自分の子どもとして受け入れます。
15. 聖霊降臨で「使徒言行録1:14」、マリアはイエスの弟子たちとともにあつて祈り、彼らの信仰を支え、聖霊の降臨を信じています。マリアは、わたしたちが一致して、祈り溢れる共同体を作り、宣教に向かい、聖霊の働きと賜物を受け入れるよう、励まします。
16. マリアについての知識を深めるため、わたしたちは祈りや養成を通して、またわたしたちの生活の中にマリアを現す生き方を通してマリアに触れる必要があります。聖書以外でも、特に教会の文献や福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードの著作、あるいはマリアニストの伝統やマリアニスト家族の公式文書に基づいて、わたしたちは自分自身を養成することを求めます。

## 愛すること

17. その時代の女性信徒であったマリアと同様に、歴史の中のある明確な時代に生きているわたしたち信徒マリアニストは、マリアの模範に倣い、マリアがわたしたちを愛するようにわたしたちも人々を愛するために、自分自身のありのままを捧げます。
18. わたしたちが生きる時代は、暴力の激増そして暴力に対する鈍感さという特徴を持っています。マリアニストとして、わたしたちは暴力を拒絶し、人々を正義と平和そして和解の中に育てることを選択します。
19. 小教区で特徴を持つ明確な民として生きながら、旅する神の民のメンバーとして、わたしたちは兄弟姉妹とともに人生を送っています。わたしたちは、それぞれの文化特有の表現方法で、マリアへの献身と愛を公に表明します。
20. 祈る女性マリアはわたしたちに、生活のあらゆる場面で祈り、他者の苦しみと連帯して一つになるよう求めます。マリアはわたしたちの仲介者です。マリアはわたしたちとともにわたしたちのために祈り、そしてわたしたちはイエスの母として、またわたしたちの母としてマリアに祈ります。
21. マリアはみ言葉に注意深くあり続け、自分の生活の中に神の意志を確信をもって受け入れながら「心の信仰」を生きました。マリアの模範に倣い、わたしたちは信仰を識別の基準とし、生活の中心とします。
22. わたしたちは、他者の中におられるイエスを見出しながら、隣人を親切にもてなし、受け入れ、世話をすることに基礎をおく家族の精神を生きます。聖霊降臨のときのように、マリアはわたしたちの共同体と共にいて、共同体をすべての人々に対して開き、どの人も完全に受け入れるように変えていくのです。
23. マリアがすべての人の母であるという考えにもとづいて、わたしたちは心と共同体を開いて、誰でも受け入れます。多様な文化的特徴を与えられているわたしたちは、それぞれの違いの故に豊かであり、真の家族の精神と率直な対話を推進しながら、共同体での生活と宣教に焦点を合わせます。
24. わたしたちは個人や共同体での生活において、マリアのように謙虚であることを求めます。それによって、わたしたちの共同体が誠実であることを示し、わたしたちに与えられた賜物を共通の善のために差し出すことができるのです。
25. マリアが自分のことよりも親戚の女性エリザベトのことを気遣い、エリザベトと共にあろうと訪ねたように、わたしたちはわたしたちの兄弟姉妹の求めに注意を向けます。わたしたちは正義のために貧しい人々と共にあることを約束します。

## 奉仕すること

26. わたしたちはMLCの会員として、わたしたち個人や共同体の生活の中でマリアの徳に倣い、わたしたちが生きるそれぞれの社会への奉仕に自分自身を置くことを求めます。わたしたちマリアニストのアイデンティティは、わたしたちの存在と懸命な働きによって次のことを証明するようにわたしたちを導きます。即ち、福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードの言葉によれば、わたしたちのマリアへの献身は儀式や感情を超える躍動的な献身であり、これがわたしたちを宣教へと押し進めるのです。

27. マリアは、わたしたちがマリアと協力してイエスをこの世にもたらすようわたしたちに勧めています。
28. わたしたちのマリアとの協力はわたしたちの洗礼の約束を新たにします。それを通して、わたしたちは、謙虚さと自由の中でマリアと共に歩むことによって、マリアと共に永遠の使命を生きることを選ぶのです。
29. このマリアとの協力によって、信徒マリアニスト共同体の会員は共通のアイデンティティと使命、共同体での生き方、そして共同体を築く方法を共有します。
30. わたしたちは共同体での祭事の中で、その土地に応じて、また豊富な文化的多様性を尊重しながら、マリアとの協力を表現します。
31. この協力は福音化のための手段であり、これを通してわたしたちは以下のことを約束します。
- 1) それぞれの会員の賜物と召命を尊重し、責任を伴う自由がわたしたちの愛の結実となるような家族生活の模範をわたしたちの証しによって組み立てること。
  - 2) すべての人が排斥や差別なく平等に受け入れられる共同体を発展させること。
  - 3) 若者の優先的選択権をあらためて肯定すること。
  - 4) 日々の仕事の中で神の国の建設を手伝うことによって、また平和と正義を求めることによって、そしてこれらに反対するすべての状況に立ち向かうことによって、わたしたちの地域における社会的、文化的、政治的そして経済的生活に参加すること。
  - 5) わたしたちが人生を理解することの証しとなる機会を与えてくれる、人生経験の重要な場としてわたしたちの仕事を見なすこと。
  - 6) 人生と仕事に創造の完全さを求めること。
  - 7) 信仰と共同体の献身について簡素で謙虚な表現を共有すること。
32. 信徒マリアニスト共同体、アリアンス・マリアル、汚れなきマリア修道会、そしてマリア会で構成されるマリアニスト家族のメンバーとして、わたしたちは教会におけるマリアの働きを推進します。わたしたちは、このマリアの模範が教会での賜物であり、聖霊が新しい人間性を形作ることに貢献するようにわたしたちを導くことを信じます。わたしたちは下記の特徴を持ちながら、社会と教会の預言的しるしでありたいと望みます。
- 1) 包括性：マリアの扉は神を求めるすべての人に開かれています。
  - 2) 平等性：すべての人は聞き入れられ、自分自身を対等なものとして表現するよう励まされます。そして、すべての人は性や人種、教育、市民としての地位、社会的身分の違いによらず同等の権利を持ちます。
  - 3) 参加：権威は特権なき奉仕であると理解されており、執行機関は決定と研究課題のために開かれており、違う考えのゆえに誰も除け者にされているように感じることはありません。
  - 4) 対話：判断や非難の前に、よく聴く姿勢と、個人間やグループ間で相互に影響しあう姿勢があります。この姿勢は、聖霊に対する堅い信頼をもって、人智の限界を探求する機会を与えてくれます。
  - 5) 団結：貧しい人々、貧しくさせられている人々に、神の子供たちとしての彼らの尊厳についての福音をもたらし、愛の文明を築くことを可能にする相互の義務をともに考えるために

彼らに近づきます。

- 6) 感受性と愛情：すべての人は互いにより近づき、喜びと悲しみを分かち合います。
- 7) 忍耐：他者の中の成長の段階を尊敬し、理解します。
- 8) 勇気：神の国を築くため、正義と真理を支持します。

最後にわたしたちは教会を建てます。そこではすべての人が神の国に対して責任を持っています。

マリアをさらによく知り、  
マリアが愛したように愛し、  
マリアの他者への奉仕の中で忠実にマリアと共に生き、  
よりよい世界を築いていきましょう。